CHAPTER 16

LDAP 認証の設定

Cisco Unified Communications Manager Release 5.0 以降では、ディレクトリの設定を次の 3 つの関連ウィンドウで行います。

- ［LDAP システムの設定（LDAP System Configuration）］
- ［LDAP ディレクトリ（LDAP Directory）］
- ［LDAP 認証（LDAP Authentication）］

LDAP ディレクトリの情報と LDAP 認証の設定値を変更できるのは、お客様の LDAP ディレクトリからの同期化が［Cisco Unified Communications Manager の管理］の［LDAP システムの設定（LDAP System Configuration）］ウィンドウで使用可能にされている場合のみです。

LDAP 認証の情報を設定するには、次のトピックを参照してください。

- LDAP 認証の情報の更新（P.16-2）
- LDAP 認証の設定値（P.16-3）

LDAP 認証の情報の更新

LDAP 認証の情報を更新する手順は、次のとおりです。

始める前に

［LDAP システムの設定（LDAP System Configuration）］ウィンドウにある［LDAP サーバからの同期を有効にする（Enable Synchronizing from LDAP Server）］チェックボックスの設定によって、管理者が認証の設定値を変更できるかどうかが決まります。LDAP サーバとの同期化が使用可能になっている場合、管理者は、LDAP ディレクトリの情報および LDAP 認証の設定値を変更することができません。LDAP の同期化の詳細については、『*Cisco Unified Cmmunications Manager システム ガイド*』の「ディレクトリの概要」を参照してください。

逆に、LDAP ディレクトリの情報および LDAP 認証の設定値を管理者が変更できるようにするには、LDAP サーバとの同期化を使用不可にする必要があります。

手順

ステップ 1　［システム］>［**LDAP**］>［**LDAP 認証**］の順に選択します。

［LDAP 認証（LDAP Authentication）］ウィンドウが表示されます。

ステップ 2　適切な設定値を入力します（表 16-1 を参照）。

ステップ 3　［保存］をクリックして、変更内容を保存します。

追加情報

P.16-5 の「関連項目」を参照してください。

LDAP 認証の設定値

表 16-1 では、LDAP 認証の設定値について説明します。関連する手順については、P.16-5 の「関連項目」を参照してください。

表 16-1　LDAP 認証の設定値

フィールド	説明
［エンドユーザ用の LDAP 認証（LDAP Authentication for End Users）］	
［エンドユーザにLDAP認証を使用（Use LDAP Authentication for End Users）］	LDAP ディレクトリとの認証をエンド ユーザに要求するには、このチェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオフのままにすると、認証はデータベースに対して実行されます。 **（注）** このフィールドにアクセスできるのは、［LDAP システムの設定（LDAP System Configuration）］ウィンドウで LDAP 同期化を使用可能にした場合のみです。
［LDAP マネージャ識別名（LDAP Manager Distinguished Name）］	LDAP Manager のユーザ ID を入力します。このユーザは、該当する LDAP ディレクトリへのアクセス権を持つ管理ユーザです。 **（注）** このフィールドにアクセスできるのは、エンド ユーザの LDAP 認証が使用可能になっている場合のみです。
［LDAP パスワード（LDAP Password）］	LDAP Manager のパスワードを入力します。 **（注）** このフィールドにアクセスできるのは、エンド ユーザの LDAP 認証が使用可能になっている場合のみです。
［パスワードの確認（Confirm Password、半角英数のみ）］	［LDAP パスワード（LDAP Password）］フィールドに入力したパスワードをもう一度入力します。 **（注）** このフィールドにアクセスできるのは、エンド ユーザの LDAP 認証が使用可能になっている場合のみです。
［LDAP ユーザ検索ベース（LDAP User Search Base）］	ユーザ検索ベースを入力します。Cisco Unified Communications Manager は、ユーザをこのベースで検索します。 **（注）** このフィールドにアクセスできるのは、エンド ユーザの LDAP 認証が使用可能になっている場合のみです。
［LDAP サーバ情報（LDAP Server Information）］	
［サーバのホスト名または IP アドレス（Host Name or IP Address for Server）］	企業ディレクトリをインストールした場所のホスト名または IP アドレスを入力します。 **（注）** このフィールドにアクセスできるのは、エンド ユーザの LDAP 認証が使用可能になっている場合のみです。

表 16-1　LDAP 認証の設定値（続き）

フィールド	説明
［LDAP ポート（LDAP Port）］	企業ディレクトリが LDAP 要求を受信するポートの番号を入力します。 Microsoft Active Directory および Netscape Directory のデフォルト LDAP ポートは、389 です。Secure Sockets Layer（SSL）のデフォルト LDAP ポートは、636 です。 （注）　このフィールドにアクセスできるのは、エンド ユーザの LDAP 認証が使用可能になっている場合のみです。
［SSL を使用（Use SSL）］	セキュリティのために SSL 暗号化を使用するには、このチェックボックスをオンにします。 （注）　LDAP over SSL が必要な場合は、企業ディレクトリの SSL 証明書を Cisco Unified Communications Manager にロードしておく必要があります。『*Cisco Unified Communications Operating System アドミニストレーション ガイド*』の「セキュリティ」の章に、証明書のアップロード手順についての説明があります。
［他の冗長 LDAP サーバを追加］	行を追加して、この他のサーバに関する情報を入力できるようにするには、このボタンをクリックします。 （注）　このボタンにアクセスできるのは、エンド ユーザの LDAP 認証が使用可能になっている場合のみです。

関連項目

- LDAP 認証の設定（P.16-1）
- LDAP 認証の情報の更新（P.16-2）
- LDAP 認証の設定値（P.16-3）
- 『*Cisco Unified Communications Manager システム ガイド*』の「ディレクトリの概要」
- LDAP システムの設定（P.14-1）
- LDAP ディレクトリの設定（P.15-1）
- 『*Cisco Unified Communications Manager システム ガイド*』の「アプリケーション ユーザとエンド ユーザ」
- アプリケーション ユーザの設定（P.105-1）
- エンド ユーザの設定（P.106-1）

関連項目